

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 28 年 2 月 25 日 (2016.2.25)

【公開番号】特開 2014-40569 (P2014-40569A)

【公開日】平成 26 年 3 月 6 日 (2014.3.6)

【年通号数】公開・登録公報 2014-012

【出願番号】特願 2013-49353 (P2013-49353)

【国際特許分類】

C 0 8 B 11/145 (2006.01)

A 6 1 K 8/73 (2006.01)

A 6 1 Q 5/02 (2006.01)

A 6 1 Q 5/12 (2006.01)

A 6 1 Q 19/10 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 B 11/145

A 6 1 K 8/73

A 6 1 Q 5/02

A 6 1 Q 5/12

A 6 1 Q 19/10

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 1 月 5 日 (2016.1.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

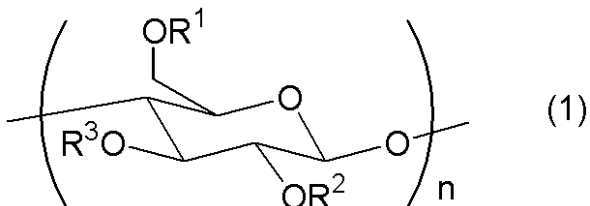
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

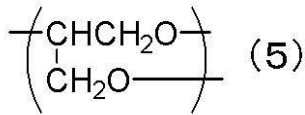
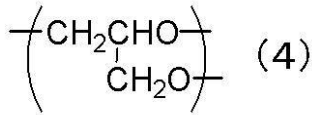
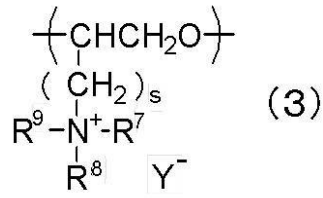
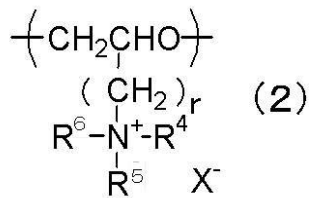
下記一般式 (1) で表されるアンヒドログルコース由来の主鎖を有し、かつ該アンヒドログルコース単位あたりのカチオン化アルキレンオキシ基の置換度が 0.01 ~ 0.18 であり、グリセロール基の置換度が 0.5 ~ 5.0 であり、25 における 1 質量 % 水溶液の粘度が 10 ~ 10000 mPa・s であるカチオン化グリセロール化セルロース、界面活性剤、水、及び油剤を含有し、油剤の含有量が 0.01 ~ 30 質量 % であり、油剤がシリコン油を含む、界面活性剤組成物。

【化 1】



(式中、R¹、R² 及び R³ は、それぞれ独立に、下記式 (2) ~ (5) から選ばれる 1 種以上の繰り返し単位からなる置換基、又は水素原子を示し、分子中の全ての R¹、R² 及び R³ が同時に水素原子となることはない。n はアンヒドログルコース由来の主鎖の平均重合度を示し、100 ~ 12000 の数である。)

【化 2】



(式中、式(2)又は(3)で表される繰り返し単位構造はカチオン化アルキレンオキシ基を示し、式(4)又は(5)で表される繰り返し単位構造はグリセロール基を示す。R⁴ ~ R⁹は、それぞれ独立に炭素数1 ~ 3の直鎖又は分岐のアルキル基を示し、X⁻及びY⁻はアニオンを示し、r及びsは0 ~ 3のいずれかの整数である。式(2) ~ (5)で表される繰り返し単位構造において、酸素原子は、水素原子又は他の繰り返し単位の炭素原子と結合している。)

【請求項 2】

カチオン化グリセロール化セルロースにおける炭素数7以上の炭化水素基の置換度が0.01未満である、請求項1に記載の界面活性剤組成物。

【請求項 3】

カチオン化グリセロール化セルロースの25における1質量%水溶液の粘度が20 ~ 6000 mPa・sである、請求項1又は2に記載の界面活性剤組成物。

【請求項 4】

カチオン化グリセロール化セルロースの含有量が0.01 ~ 10質量%である、請求項1 ~ 3のいずれかに記載の界面活性剤組成物。

【請求項 5】

界面活性剤に対するカチオン化グリセロール化セルロースの質量比(カチオン化グリセロール化セルロース/界面活性剤)が0.0002 ~ 10である、請求項1 ~ 4のいずれかに記載の界面活性剤組成物。

【請求項 6】

界面活性剤の含有量が0.1 ~ 80質量%である、請求項1 ~ 5のいずれかに記載の界面活性剤組成物。

【請求項 7】

界面活性剤が、アルキル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル酢酸塩、スルホコハク酸アルキルエステル塩、アシルグルタミン酸塩、アシルイセチオネート、及びアシルメチルタウレートから選ばれる陰イオン性界面活性剤、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、脂肪酸アルカノールアミド、及びアルキルグリコシドから選ばれる非イオン性界面活性剤、及びアルキルジメチルアミノ酢酸ベタイン、脂肪酸アミドプロピルベタイン、及びアルキルヒドロキシスルホベタインから選ばれる両性界面活性剤から選ばれる1種以上である、請求項1 ~ 6のいずれかに記載の界面活性剤組成物。

【請求項 8】

請求項1 ~ 7のいずれかに記載の界面活性剤組成物の毛髪化粧料組成物としての利用。

【請求項 9】

請求項1 ~ 7のいずれかに記載の界面活性剤組成物の皮膚洗浄剤組成物としての利用。

【請求項 10】

毛髪すすぎ時のすべり感とその持続感、乾燥後の毛髪にしっとり感と柔らかさを付与す

るための、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載の 界面活性剤 組成物の毛髪化粧料としての使用。

【請求項 11】

乾燥後の皮膚に保湿感を付与するための、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載の 界面活性剤 組成物の皮膚洗浄剤としての使用。